

民医連厚生事業協

# 共済だより

2022年  
1月  
第165号

発行所●全日本民医連厚生事業協同組合

〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-4  
平和と労働センター6F  
TEL03-5842-5650 FAX03-5842-5652  
E-メール:k-tayori@min-iren.gr.jp  
(共済だより用)  
kyousai@min-iren.gr.jp  
(厚生事業協宛)  
ホームページ:https://min-jigyo.or.jp

## 頌春



いわさぎさびろ「白い毛糸帽の子ども」1970年  
(14ページに作品のコメントと美術館のご案内をしております)

### 主な記事

- 新年あいさつ「みなさんとともに豊かで平和な年に」/理事長 柳沢 深志
- 各地の共済企画 大阪支部
- いま、沖縄に連帯して 14カ月ぶりの大行動
- いま、なぜ憲法改悪なのか パートII ⑨6 若手弁護士の会
- 縮図からみる世界④④ 基本的人権がどこにあるのか/斎藤 貴男
- 私の趣味・こだわり紹介⑫ 『ドローン』という名の、新たな撮影手段/鹿児島・向井 智大
- 私の趣味・こだわり紹介⑬ 私と少林寺拳法/石川・ペンネーム しおしお

2021年度  
スポーツ文化企画  
のお知らせ

<https://www.min-jigyo.or.jp>



ログイン 2021  
パスワード 1192  
(半角数字)

携帯電話でご応募の方は  
こちらからどうぞ  
応募先のメールアドレスが  
読みとれます



※「私の民医連」は今回は誌面の都合でおやすみとさせていただきます。

前号で筆者名の誤りがありました。正しくは川崎博通先生です。おわびして訂正いたします。(編集部)

新年挨拶

# みなさんとともに 豊かで平和な年に

全日本民医連厚生事業協同組合 理事長 柳沢 深志

全国の民医連職員のみなさん、新年あけましておめでとうございます。

みなさんは、2022年の始まりを、どちらで、どなたとお過ごしになったでしょう。

2020年から全世界に拡大した新型コロナウイルス感染症の猛威の中、2021年のお正月は、第3波の真ただ中。病院で、介護施設で、あるいは自宅で、遠く実家に帰ったりすることもできない中、不安と疲弊、そして患者利用者のことを考えながら、過ごされたことでしょうか。

この原稿を書いている現在、国内での感染は比較的落ち着いている様相で、少し肩の力も抜いています。報道では「オミクロン株」という新種が世界に拡大し始め、ヨーロッパや、お隣の韓国でも感染が拡大

しており、心配の種は尽きません。

2021年はどんな年だったのか振り返ってみようと思っていたところ、今年の流行語・新語大賞が報道されていました。「リアル二刀流／ショータイム」とのこと。大リーグ

の大谷翔平選手にちなんだ言葉でした。よく、二兎を追うものは一兎をも得ずと言いますが、二兎を追った大谷選手に全世界から賞賛の拍手があつたのです。大谷選手に会うことができたなら、どうして投手と打者と両方がんばったのか聞いてみたいと思えました。野球が好きだからと言われるような気がしますが。

コロナ禍と対峙した私たちの医療、介護、福祉の現場では、患者・利用者を守るのか、職員を守るのか、厳しい局面の中、二極対立的に捉えてしまう場面も多々ありました。全日

本民医連が発信した声明で、「職員のいのちと健康を守ることを第一に」という訴えは、多くの職員の安心と職員への励ましになりました。職員を守らずして、患者利用者のいのちも生活も守れない、というメッセージではなく、目指すものは同じだというこ

## 柳沢医師経歴

- 1991年3月 金沢大学医学部を卒業
- 1991年4月 石川民医連 城北病院に勤務、初期研修
- 1996年4月 榊原記念病院にて循環器研修
- 1997年4月 城北病院に勤務  
循環器を中心に入院、外来、カテーテル検査、リハビリや高齢者医療を担当
- 2001年以降 城北病院の臨床研修病院取得に関わる  
城北病院初期研修プログラム責任者を担当
- 2006年4月 城北病院副院長  
入院診療、循環器、透析を担当  
県連医師委員、医師委員長を歴任  
全日本民医連医師部でも、「メディウイング」編集長、医学生委員長を担当
- 2008年3月 全日本民医連理事
- 2012年3月 全日本民医連副会長
- 2021年6月 全日本民医連厚生事業協同組合理事長



とだと思えます。

2021年8月、第5波のなか、政府は、東京オリンピック、パリオリンピックを強行開催しました。首都東京にも緊急事態宣言が出ている中でした。コロナ対策とオリンピック、パリオリンピックを同時開催するとうまさに二兎を追う決定でしたが、これは、まったく異なる二極にむけた方向で、結果感染拡大につながったと思います。多くの感染者と死者を出すことになった大きな失政として記憶にとどめる必要があります。



2021年とはと、再び振り返った時、まず第一に、1月22日の核兵器禁止条約の発効は世界史を変える大きな人類の良心の決断と記録に残るでしょう。名前も聞いたことのない小さな新しい国々が、大国の横やりを跳ね返して、人類を、地球を守るために声を上げ、手をつなぎ、世界政治を動かしている。その第一歩を踏み出した日と言えます。

国内では、10月31日衆議院選挙が行われました。この選挙は何だったのかと問われると、私の思いは、日本の政治史上初めてジェンダー平等や気候危機問題が選挙争点として浮上した選挙と思っています。議席の力関係を大きく変えることは残念ながらできませんでした。が、「幸福追求権という憲法が示した人権を守れ」と、多くの人々が声を上げたことの意味は歴史的だと思えます。

選挙後、岸田自民党政権は、国会内の議席による力関係を背景に改憲発動すると意気込んでいます。民医連職員として、平和と人権を尊重する取り組みを進めていくうえで、改憲を許さない大きなたたかいが今求められています。

私たちの共済は、全国の民医連職員の全員加入により、全ての仲間の福利厚生を保障し、よくするための組織です。民医連職員が健康で文化的に働き続けることで、私たちが提供する医療、介護、福祉も発展させ、さらには、共同組織のみなさんや地

域のみなさんとの共同の営みも前進させることができます。

2022年が、みなさんにとって、国民にとっても、そして世界中の人々にとっても、豊かで平和な年になることを祈念し、みなさんとも歩いていきたいと思えます。

## 『笑って死ねる病院』 「最後の願い」を叶える希望の医療

著：テレビ金沢 出版社：ワニブックス

「家に帰りたい」「床屋に」「パチンコに」。  
金沢の城北病院では、人手不足の現場をやりくりして、余命が迫った患者さんの願いをかなえている。

この精神は、終戦後、貧しくても安心して誰でも見てくれる診療所をと、地域の人々がお金を出し合い自分たちの小さな診療所を作ったのがはじまりです。

日本テレビの『NNNドキュメント'08』で放送された、肺がん末期であと一週間と余命宣告された男性の最期の願いをかなえるエピソードを含めた、6名の患者さんの「最後の願い」を掲載した書籍。

人生の最期を迎えた患者さんと、家族の「想い」と、「医療はどうあるべきか」を模索し続ける医療従事者の実話です。

読者プレゼント 『笑って死ねる病院』を10名の方にプレゼントします。メール・ハガキに「プレゼント希望」としてください。

11月27日、岸田首相は自衛隊の観閲式での訓示の中で、「敵基地攻撃能力」の保有も含めあらゆる選択肢を排除せず検討し、必要な防衛力を強化する」と述べました。安倍元首相が退任時に言付けのように残した「敵基地攻撃能力の保有」を忠実に継承したようです。

### 1. 「敵基地攻撃能力」とは

そもそも「敵基地攻撃能力」とは何でしょうか。かんたんに言えば、日本が近隣国などから弾道ミサイルなどで攻撃される事態を想定し、相手国・地域の領域内にあるミサイルや発射装置、拠点施設、地下のミサイル基地などの防空網の正確な位置を把握し、それらを攻撃する一連のオペレーションを実行する能力のことです。これは、迎撃ミサイルシステム「イージス・アショア」の配備を断念したことで、安倍政権下で議論が本格化しました。しかし、結論から言ってしまうえば、憲法9条との関係はもちろん、技術的に到底不可能な空想のような話です。

### 2. 憲法9条に反する

先ほど説明したとおり、敵基地攻撃とは、外国の日本に向けたミサイル攻撃を察知して、発射される前にその基

## シリーズ

# いま、なぜ憲法改悪なのか **パートII**

## 96 「敵基地攻撃能力」とは～ほぼ先制攻撃、ほぼ空想～



「明日の自由を守る若手弁護士の会」共同代表  
公式ブログ <https://www.asuno-jiyuu.com/>

黒澤いつき



地などを破壊する、という行為です。つまり、まだ日本は攻撃されていない段階であり、それは先制攻撃と何が違うのか、という話になります。憲法9条はもちろんだ、国連憲章にも反する先制攻撃を、「やらなければこちらが攻撃されていた」と正当化するの、幾度となく繰り返されてきた戦争の方便です。

また、集団的自衛権の行使を許す安保法制の下で「敵基地攻撃能力」が保有されることになれば、同盟国アメリカの軍事作戦としての「敵基地攻撃」に自衛隊が利用される可能性が高まります。専守防衛とはどこまでも乖離かいはりし、9条を蹴破る暴挙を容認するわけにはいきません。

### 3. 技術的に不可能

そもそも、「外国が日本への攻撃へ着手した」ことをリアルタイムで察知することは技術的に不可能です。仮に人工衛星がミサイルへの燃料充填の様子を捉えたとしても、それだけで狙いが日本かどうかは不明です。日本が標的だと思いついて基地を破壊すれば、当然、先制攻撃になる可能性が高いわけです。

さらにいえば、ミサイル基地をつぶすといっても、果たしてその国のミサ

イル発射台が何台あるかという国家機密は（スパイ映画のような諜報活動でもしない限り）把握できません。敵基地攻撃をするとなれば、必ず「すべての」発射台を破壊しなければなりません（でないといわず反撃されます）が、ミサイル発射台は車輪で移動するものなので、発見してから日本が攻撃するまでタイムラグがあればいくらでも動かせます。そのすべてを、ピンポイントで寸分の誤差もなく狙うことは、やはり技術的に不可能です（ちなみに、イラク戦争では米軍ですら、イラク軍のミサイル発射台を半分ほどしか破壊できませんでした）。

### 4. 際限ない軍拡ではなく

#### 平和外交を

自民党は総選挙の公約で、敵基地攻撃能力を「抑止力を向上させるための新たな取り組み」と表現しました。しかし抑止力の向上とは結局、際限のない軍拡競争です。

数々の福祉を、「財源がない」と言って切り捨てる一方で、軍拡に税金を投入し続けることに納得はできません。平和外交の努力を積み重ねて戦争の芽を摘むことが一番合理的ではないでしょうか。

## 縮図からみる世界【44】

齋藤 貴男



## 基本的人権がどこにあるというのか

空が怖い。

青森県の西岸・深浦町の町役場近くの国道に、戦闘機の燃料タンクが落ちてきたのは、11月30日午後6時頃のことである。道路上は油まみれで、長さ1・5メートルほどの破片が散乱していたという。

米軍三沢基地（三沢市）所属のF16機が飛行中に何らかの緊急事態に陥り、2つの燃料タンクを投棄したとされている。岩木山周辺の人のいない地域だったと基地側は発表しているが、現実には落下物が発見された付近には、民家もあれば、JR五能線も走っていた。

犠牲者が出なかったのは、「たまたま」ではない。なお、三沢基地のF16は2018年2月にも、離陸直後にエンジントラブルを起こして、2つの燃料タンクを小川原湖（青森県東北町）に投棄した経緯があった。

深浦町の事故の1週間前、11月23日の午後6時45分頃には、沖縄県宜野湾市の住宅街に、長さ25センチ、直径15センチで容量1・8リットルの金属製水筒が落下している。水が入っていたかどうかは不明だが、空の状態でも重さ約800グラム。住宅敷地内の玄関先で見つかったという。

米軍普天間飛行場（宜野湾市）所属のMV22オスプレイが、離陸直後に落とした。こちらも

「たまたま」犠牲者が出なかったらしい点は深浦町と同じだが、全国的にはごく小さくしか報じられなかった点が異なる。

それは差別なのか、沖縄ではこの手の事故が常態化していて、もはや珍しくもなくなっているからなのか。今回の現場から遠くない保育園の屋根に米軍ヘリの部品、小学校の運動場に同じく米軍ヘリの窓がそれぞれ落とされたのは、2017年12月だった。

青森でも沖縄でも、米軍や日本政府の対応はいつも同じだ。「適切に対応する」と前者が言い、後者は時に抗議の真似事をしてみせるだけ。こんな状況がいつまで続けられるのか。基本的人権がどこにあるというのか。

基地の街に住んでいない人々も、いずれはこれに近い恐怖と不安を強いられることになるだろう。ドローンが本格的に実用化され、荷物の配送などに活用されてしまえば、下界の人間は絶えず墜落の恐怖に怯えることになる。

だとしても、それは自動車と同様に、大いなる「利便性」を期待できるのだから、法規制などもつての外、「リスクテイク」（もともとは資産運用の用語で、敢えて危険を冒して強行すること）する姿勢が望まれると主張する人々が、この国の中枢には少なくないのだ。

空が怖い。だけど人間はもっと恐ろしい。

### 齋藤 貴男（さいとう たかお）

1958年東京生まれ。早稲田大学商学部卒。英国バーミンガム大学大学院修了。主な著書に『機会不平等』『国民のしつけ方』『戦争経済大国』『驕る権力、煽るメディア』『決定版 消費税のカラクリ』『いちばんたいせつなもの』など。

